

資料館でビデオ鑑賞

深澤晟雄資料館の映像資料を観る目的の入館者が目立っています。個人や夫婦・友人などの小人数で半日から1日を資料館で過ごす人もあります。中には何回観ても感動すると、複数回来館する人もあります。

資料館では「感動をおみやげに」と、入館者の要望に応えられるサービス体制の充実に努力しています。



50インチの大型テレビでビデオを鑑賞する20人の団体入館者 (8月28日 資料館)

ドラマや記録映画に感動

資料館に保存されるたくさんの映像資料の中から、入館者が希望すれば常時観られる番組は50インチの大型テレビに次の4本がセットされています。

「自分達で生命を守った村」(昭43・記録映画33分)
当時の保健医療行政を記録した映画で、東京都教育映画コンクール銀賞受賞作。今は亡き村民の多くが登場する。資料館で最も成の昭和38年1月1日を

多く視聴されている。「いのち燃え尽きるとも〜深澤晟雄の心〜」(昭53・岩手放送番組54分)
深澤村長時代をドラマ化したもので、沢内ロケで主役以外は沢内弁で多くの村民が出演している。

「その時歴史が動いたII 赤ちゃんを死なせない」(平19・NHK番組42分)
初の乳児死亡率ゼロ達成の昭和38年1月1日を

金一封に感謝

群馬県邑楽町 群馬県邑楽町
一関市千厩町 村上福敏子様
村上福男様



病院の草刈り奉仕

深澤晟雄の会が呼びかけた沢内病院周辺の草刈り奉仕作業が7月21日午前9時から行われました。草刈り機など持参の男女23人が、病院敷地内の草刈りや除草作業に2時間ほど汗を流しました。

「その時」として、赤ちゃんの命を守った村の記録。当時大きな反響を呼んだ。演劇「燃える雪」(昭62・岩手県民会館大ホール・第1幕70分・第2幕60分)
東京の劇団銅鑼が創立15周年記念に及川和男氏の「村長ありき」を舞台化したもの。これが人気を呼び北海道から沖繩まで300回の全国公演を記録。

深澤村長の肉声も
音声資料では次の番組がセットされています。
「深澤村長年頭の言葉」(昭40・岩手放送3分)
深澤村長最期の言葉で、放送の新年28日逝去。
「深澤晟雄を讃える歌」(昭41 胸像除幕式披露)
久保俊郎作詞・野崎哲郎作曲・外山光子



「書かざるの記」と

深澤村長の記憶

聞き手／深澤晟雄の会副理事長 佐々木 孝道

＜村田源一郎氏インタビュー＞

村田源一郎氏には深澤晟雄の会のインタビューの申し出に、快くお引き受けいただきました。3.11東日本大震災の10日後で何かとあわただしい中にもかかわらず、昨年3月21日、岩手日報本社相談役室でお話しを伺いました。

本紙編集部で主要部分をまとめて村田氏の承認を得た上で、次号までの4回連載でご紹介しています。



武見太郎日本医師会長(左から2人目)を迎えて、歓迎の言葉を述べる深澤村長(右端の横顔。昭和38年10月12日)

懇意の深澤・武見

両氏の人物像語る

佐々木 そうした深澤村長との一連のふれあいの中で深澤晟雄さんにどんな印象をもたれましたか。

村田 行動力のある方ですね。地域政治を志す人間であれば、村政に対する理念は、皆それぞれに持っているが、それを行動に移すとなれば反対者もあれば批判者もあつて難しいんだが、深澤さんはそんなことに意を払うことなくマイペースでやろうとした人ですね。

したがって、沢内においてはそういう個人的考えと行動はある程度できたわけですが、全県の町村長会議では深澤さんはずいぶん人気はなかつたですね。雄弁なんだけれども独善的だという考え方も町村長にあつたかもしれない。本来は県内でもっと重きを置かなければならなかつたはずなのに、必ずしもそうはならなかつたことを僕は残念に思つたな。

村田 月に1〜2回沢内に行きました。北上を7時半ごろに出て、川尻からバスに乗り換えて湯本に着くと12時でした。朝食を済ましたところに沢内役場のジープが迎えに来てくれて、その車を村内の話題の取材に使ってくださいと深澤さんが言うんです。和賀旅館に泊まって1泊2日の取材でした。

佐々木 日本医師会長の武見太郎さんが深澤村長とは懇意で、沢内のためなら何でも手伝うとのことのお話だつたそうですが、村田さんは武見会長との接触はありましたか。

村田 それがね、僕は武見太郎さんと初めて湯本温泉で酒を飲んだんです。その日は深澤村長は都合でこれなくて、加藤(院長)さんと久保(議長)さんだつたかなあ。

武見太郎さんは毎年沢内に寄付してました。武見会長は非常に独裁者で賛否半ばする人間だが、沢内に関しては実に穏やかな人だつたらしい。年に2〜3回来たんじゃないですか。盛岡の医師会長の横川さんも時には湯本温泉まで出てきて武見さんと話しました。そのときは僕らも一緒に酒を飲みました。

つづく